

■その他の事業

▶消防ポンプ自動車の購入…2,955万6千円

取手署に配備されていた平成9年式消防ポンプ自動車を更新し、消防体制の充実強化を図りました。

▶^{くぬぎ}桐木消防署大規模改造

…1億8,711万円

▶消防団車両の更新…3,274万5千円

▶公園施設長寿命化対策

…5,600万1千円

▶議会用タブレット・採決表示システム

使用料…324万8千円



▶ご当地ナンバープレート作成…35万2千円

元年度に募集した原動機付自転車などのナンバープレートのデザインをもとに市オリジナルのご当地ナンバープレートを作成・交付しました。

▶取手図書館空調設備改修

…5,368万円

▶埋蔵文化財センター改修

…4,768万5千円

▶あけぼの外壁・屋根改修

…3,470万5千円

▶ホテル放流…239万3千円



新型コロナウイルス感染症に対応した事業

■感染拡大防止

▶新型コロナウイルスワクチン接種…2,074万5千円

新型コロナウイルスワクチンの早期接種に向けて、迅速・円滑に接種を行える体制の整備や、医療従事者などへのワクチン接種を実施しました。

▶児童福祉・教育施設などの感染症対策

…1億4,299万9千円

感染症対策として、消毒液などの消耗品や保健衛生用備品の購入などを実施しました。

▶消防救急業務等感染症対策

…263万1千円



■地域経済支援

▶テイクアウト飲食店事業者支援…2,604万7千円

新型コロナウイルス感染症の影響による売上減少が懸念される市内飲食店などを応援するため、出前やテイクアウト販売を行う飲食店事業者に一食当たり300円の補助を行い、事業者の事業継続を支援しました。

▶プレミアム付商品券発行

…9億9,721万9千円

▶商工業者事業継続応援給付金

…1億7,647万7千円

▶地域公共交通等支援事業補助金

…1,800万円

▶芸術家パートナーシップ…400万円

▶アート創作活動拠点オンライン公開

…350万円



■市民生活支援

▶新生児特別給付金…986万7千円

令和2年4月28日以降に生まれた新生児1人当たり2万円を給付しました。

▶特別定額給付金…108億262万円

▶子育て世帯への臨時特別給付金

…1億1,205万1千円

▶子育て世帯応援臨時給付金

…1億1,848万8千円

▶ひとり親世帯への臨時特別給付金

…1億2,355万9千円

▶ひとり親世帯応援臨時給付金

…1,959万3千円

▶生活困窮者住宅確保給付金

…1,417万7千円

▶防災ラジオ普及拡大

…653万4千円

▶^{ギガ}GIGA スクール環境整備…7億6,957万9千円

児童生徒に1人1台のタブレット型パソコンを配置し、高速大容量の校内通信ネットワークなどを整備しました。

▶電子図書館システム導入

…516万9千円

▶修学旅行および校外学習の延期に対する支援…554万4千円



市長

Mayor's column

コラム

都市生活を支える鉄道 インフラを守ろう



取手市長

藤井信吾

明治29(1896)年に日本鉄道土浦線が田端・土浦間で、大正2(1913)年に常総鉄道が取手・下館間で開業しました。JR常磐線、関東鉄道常総線の前身です。取手市はこの二つの鉄道とともに発展してきました。

鉄道サービスは利用者の増加とともに便利になりましたが、モータリゼーションの進展や少子高齢化などにより鉄道を取り巻く環境は大きく変化してきました。鉄道事業者は生き残りをかけて運行体制の見直しなどを迫られているほか、自治体との協力・連携体制の重要性が増してきています。

関東鉄道常総線は、もともと無人駅が多く乗降者数も少ない単線の「北線区間(水海道駅以北)」は赤字であり、複線の「南線区間(水海道駅～取手

駅)」の黒字により全体で利益を確保する構造で、北線の沿線自治体では安全基盤整備のための費用を補填しています。つくばエクスプレスが開業した平成20年からはワンマン化、25年からは南線区間の駅の無人化などのコスト削減策を進め合理化に努めていますが、コロナ禍により南線区間でも営業利益が赤字となりました。そのため市では令和3年度に「鉄道軌道安全輸送設備整備事業補助金」を沿線自治体とともに支給しています。

コロナ禍はJR東日本にも大きな影響を与え、鉄道部門の営業収益が2020年度は前年度対比で53%にまで落ち込んだそうです。一方で車両・線路などの維持費が高いために営業費用は大きく落とせず、民営化後初の赤字

となりました。ニーズに照らして最終電車の繰り上げが行われたほか、今後もさらなるダイヤの調整などが見込まれます。

市は以前からJR東日本東京支社と取手・我孫子・柏・松戸の4市で定期的に協議の場を持っていますが、通勤・通学利用にとどまらない旅客需要の増加策を協議しています。新たな鉄道の価値や常磐線沿線の魅力をより効果的に発信するため、常磐線専用HPやSNSでの発信、デジタルサイネージでの周知などのほか、駅からハイキングアプリなども充実させています。

身近な魅力を再発見するとともに、都市生活を支えるインフラとしての鉄道を守るためにも、感染症対策を十分行った上で鉄道を使って出掛けませんか。